

# EXHIBITION SCHEDULE

## 2012年度 展覧会スケジュール

### 春季特別展

#### 平山郁夫展 次世代への<sup>メッセージ</sup>伝言

2012年4月7日(土)～5月20日(日)

現代日本画家として名高い平山郁夫は、少年期の被爆体験から、仏教への深い思いと平和への祈りを込めて、独自の画境を切りひらきました。日本文化の源流を求めてシルクロードを訪ね、壮大な景色や人々との出会いを数々の作品に表し、世界の文化遺産保護活動にも精力的に取り組まれました。

本展では、シルクロードの本画や大下図のほか、故郷や生い立ちを描いた水彩画など約80点を展示し、60年余におよぶ画業と活動を紹介し、平山郁夫が絵筆に込めた文化の保護や平和への思いを、次世代に継承できれば幸いです。



平山郁夫「流沙浄土變」/1976年  
株式会社ジャパンヘルスマット蔵

### 夏休み特別企画展

#### アン・グットマン&ゲオルグ・ハレンスレーベンの世界 リサとガスパール&ペネロペ展

2012年7月14日(土)～8月26日(日)

フランス発の人気絵本シリーズ「リサとガスパール」、そして青いコアラの女の子が主人公の「ペネロペ」。色彩豊かでユーモアあふれる両シリーズは、ゲオルグ・ハレンスレーベンとアン・グットマン夫妻によって生み出されました。

1999年に第一作が出版されて以来、こどもたちの持つ好奇心やのびのびとした心を表現した内容で、こどもや大人の女性からも愛されています。今回は原画はもちろんのこと、アニメーションになったキャラクターたちの新たな魅力をご紹介します。



「リサとガスパールのレストラン」Hachette Livre  
© 2004 Anne Gutman and Georg Hallensleben



「きょうはなにをするの、ペネロペ」Gallimard Jeunesse  
© 2004 Anne Gutman and Georg Hallensleben

### 秋季特別展

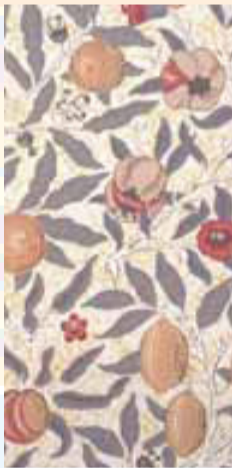
#### ウィリアム・モリス展

ステンドグラス・テキスタイル・壁紙 デザイン

2012年10月6日(土)～11月11日(日)

産業革命後の19世紀イギリスで活躍したモダン・デザインの父、ウィリアム・モリス(1834-1896)。彼のデザインした壁面から家具に至る室内装飾の一切は、当時、身近な芸術として生活に取り入れられました。また、工業化が進むなか、手仕事によってつくられたそれらは、100年以上経った今でも愛され続けています。

本展では、これまであまり紹介されていなかった、初期の教会ステンドグラスの仕事をバックライトフィルムで再現展示します。さらに、草花や鳥をモチーフにしたテキスタイルや壁紙、椅子など約80点を一堂で紹介し、モリスの仕事の全容に迫ります。



デザイン:ウィリアム・モリス  
「柘榴あるいは果実」  
1866年頃



デザイン:ウィリアム・モリス  
「ぶどう」1874年

photo©Brain Trust Inc., Tokyo

### 新春特別展

#### 生誕130年 魯山人の宇宙

2013年1月5日(土)～2月3日(日)

北大路魯山人は、陶芸や書、絵画、漆芸などの幅広い分野において、伝統を学びつつ、斬新で個性的な作品を手がけた芸術家として知られています。特に陶芸では、料理と器の総合的な演出を目指し、鋭く優れた感覚で独特の魅力を持つ陶磁器を生み出しました。

本展では、アメリカから里帰りしたカワシマ・コレクションを含め、笠間日動美術館の所蔵品から約80点を展示し、世界的にも高く評価されている魯山人の感性と軌跡を紹介し、生誕130年の節目の年に、魯山人が築いた芸術世界をお楽しみください。



北大路魯山人 九谷風鉢  
カワシマ・コレクション(笠間日動美術館)

### 企画展

#### 館収蔵品展Ⅱ

2012年6月2日(土)～7月1日(日)

明石を語る上で、海は欠かせない存在です。2011年度に続く2回目の館所蔵品展では、私たちにとって身近な「海」をテーマとしました。海をのぞむ風景は芸術家たちの心をとらえ、各地で多くの美術作品が描かれてきました。また明石の沿岸にくらす人々は、豊かな「海の幸」を得るために用いる様々な漁具をつくり出してきました。そこには、生き物の習性や環境から学んだ知恵と工夫が生かされています。

本展では、美術作品に加え、漁に関する民俗文化資料を紹介し、海と人との関係をさぐります。母校である明石小学校に永らく保存されていた、古家新の「海峡」(1934年)も初公開します。

### 郷土作家シリーズ

#### 生誕120年記念企画展「寺島紫明の素描」

2012年9月1日(土)～9月30日(日)

寺島紫明は、明治25年(1892)明石市の木綿問屋に生まれました。師である鏑木清方の情緒的な画風を受け継ぎながら、情感豊かな存在感のある美人画を生み出し、帝展や文展、日展で入選を重ねました。

紫明は本画の他に多くの素描も残しています。生誕120年に当たる本年、館蔵品の中から日展出品作の下絵をはじめとする素描を中心に展示し、制作の秘密と画業を紹介し、また、近年収集した紫明の作品(本画)も初公開します。

### 企画展

#### 発掘された明石の歴史展

—明石の古墳Ⅱ—

2012年11月23日(金・祝)～12月24日(月・振休)

明石市内の発掘調査では、数々の遺構や遺物が見つかっています。昨年の展示より引き続き、今年は、古墳時代後期の明石地域の古墳を取り上げ紹介いたします。古墳時代後期には横穴式石室をもつ古墳が出現するとともに、副葬品には須恵器が含まれるようになります。近年発掘調査が行われた魚住町寺山古墳から出土した埴輪や須恵器、玉などをはじめとした副葬品等の出土遺物を展示し、当時の明石地域の政治・社会のあり方を明らかにしていきます。

### 企画展

#### くらしのうつりかわり展

2013年2月10日(日)～3月20日(水・祝)

毎年小学校の社会科・総合学習の一環として開催される「くらしのうつりかわり展」は、昭和時代のくらしの様子を当時の道具や写真などでふりかえります。さまざまな世代の方にお楽しみいただける展覧会です。

【小学校社会科の学習での見学】

例年、小学校の社会科の課外学習でご利用いただいています。本展の見学申込は9月中旬に開始予定です。詳しくはお問い合わせください。

※展覧会名、会期など変更になる場合がありますので、ご了承ください。